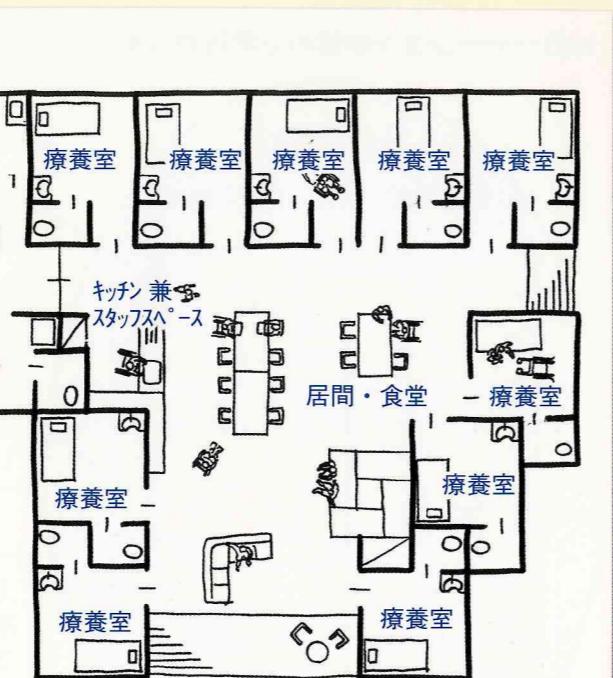
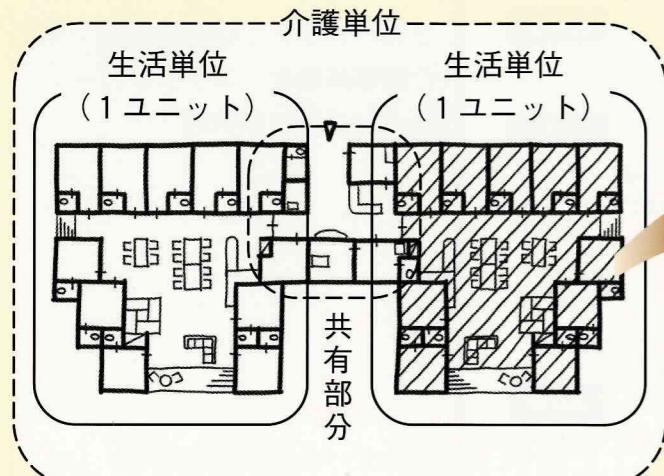


介護老人保健施設とユニットケア

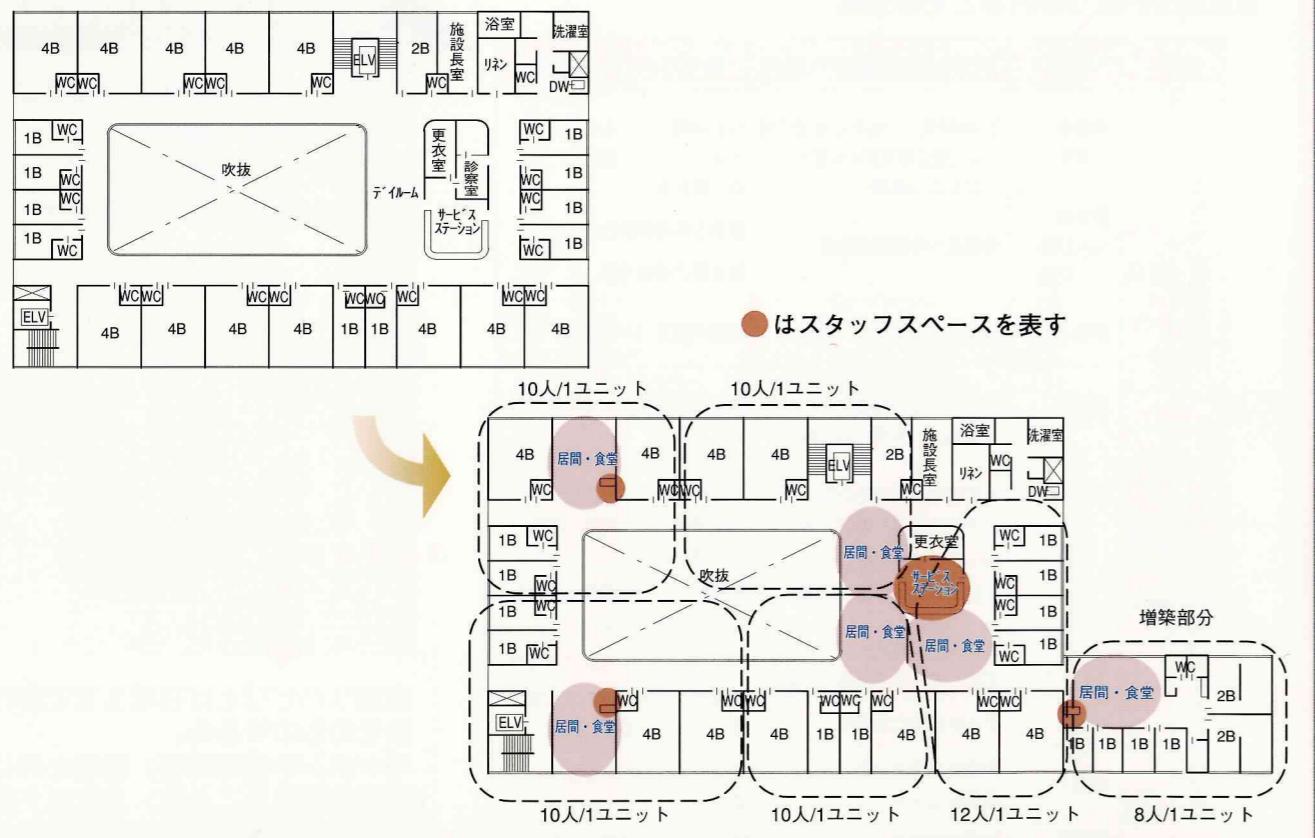
在宅復帰のために

■新築によるユニット（例）



■1ユニットの構成（例）

■既存施設のユニット化（例）



ユニットケアとは

- 少人数の入所者と専門職員からなる小規模な生活集団
- 共同生活を行うことによる日常生活でのケア
- 家庭的な雰囲気の環境
- 個別ケアを実現するひとつの方針として重要
- 特に痴呆性高齢者のケアに有効（グループホームの応用）
- 在宅復帰を視野に入れたケア

介護老人保健施設におけるユニットケアの意義

■個別ケアのための場として

- 入所者とスタッフの間でお互いの顔がみえる人間関係づくりが重要

■在宅復帰のための生活リハビリの場として

- 日常生活行動を通じた生活リハビリに適し、在宅復帰に寄与する
- 在宅復帰に備えた日常生活訓練の場

■家族との絆を維持するため

- 家族を含めて、相互の顔がみえる人間関係づくりに寄与する（たとえば、面会者が誰の家族かわかりやすい、面談がよりしやすくなるなど）
- 在宅復帰、通所リハビリへの移行、繰り返し利用などへのつながりができる

■痴呆性高齢者ケアの場として

- 軽中度の痴呆性高齢者のケアと在宅復帰に対する効果あり
- 少人数なので、入所者にとって他の入所者とスタッフが認識しやすい
- 小さな環境なので身のおきどころがわかりやすい

■家庭的な生活環境として

- 一定期間にわたって生活の拠点となる場として家庭的な環境づくりが大切



ユニットケアを成立させる必要条件

敷地条件

ユニットケアに対応できる
老健施設に必要な敷地条件

■敷地の広さ

ユニット化に伴う増改築や駐車場のスペースを確保するためには
概ね、敷地面積／延床面積 = 2倍以上
の敷地の広さを確保できることが望ましい

■周辺環境の条件

一般住宅として相応しい・市街地から離れていない・関連支援施設が近くにあるなど

■施設の設置形態

医療施設との合築や施設的イメージを回避、家庭的なたたずまい、地域支援空間の確保

入所者のグルーピング

少人数にグルーピングする上でのポイント

■人数の設定

1ユニット10人前後

■介護度によるグルーピング

身体的自立度、痴呆度の程度による方法

■生活歴によるグルーピング

入所者の生活歴や教養、興味の違いによる方法

■入所期間によるグルーピング

生活リハビリとユニットケア

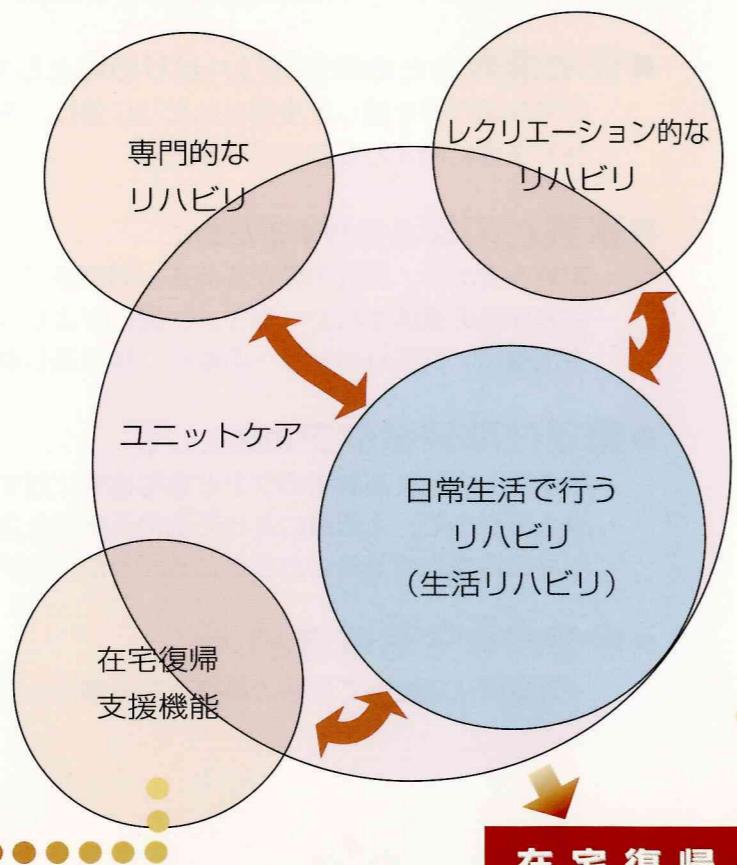
日常生活の自然な流れの中で行い、在宅復帰に役立ち、在宅でできるリハビリ（生活リハビリ）の実践

ソフト面とハード面の条件

- OT、PT、ST等の専門職の参画
- 身近な日常生活の中に組み込まれた設備

在宅復帰支援機能

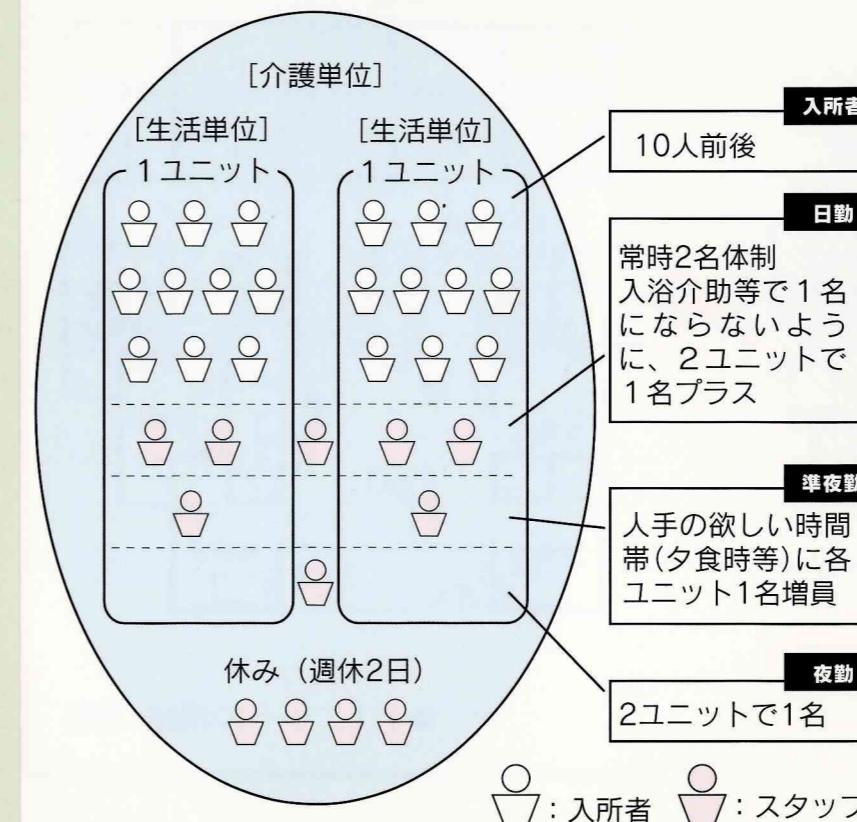
- 家族介護教室等（共用空間と人材の活用）
- 住宅改修の支援（OT・建築士等の派遣）



在宅復帰

ユニットケアを成立させる必要条件

■ローテーションが組める職員数（例）



ユニットケアに必要な看護・介護職員数

ユニットケアに必要な看護・介護職員数を、スタッフローテーションから検討

[ローテーションが組める最小職員数]

夜勤や休みを考えると、1ユニットのみでのローテーションには無理がある。
→2ユニットで12人 (=1ユニットで6人) の職員が必要。

生活リハビリの内容とその効果

部門	室名	日常生活及び生活リハ内容	生活リハビリの効果
PRIVATE ZONE 居住	療養室 (個室)	24時間個人の私的な生活の場 (4人室は個室的4床室となるよう考慮)	私的空間でくつろげる所以、生活リハビリに自然に取り組める
	療養室 (4人室/2人室)	他諸室への移動の拠点	家族が長時間訪れやすい 居室間の移動可能
	便所	自立排泄の手助け、訓練	排泄の自立（一部介助）
	洗面所	理容・美容の促進 (歯磨き、洗顔、お化粧)	自発的に身だしなみを整える
SEMI-PRIVATE ZONE 食事・談話	居間・食堂	家庭的な雰囲気での食事、おやつ、趣味、談話の場 個々の入所者の生活リズムに合わせたりハビリの場	個々の残存能力をのばす (食事の支度、談話、趣味活動等) 家族と共に在宅復帰に向けたリハビリが行える
	キッチン	あたため、盛り付け、配膳、下膳、洗いを入所者と一緒に コミュニケーションがとれる	自発的な食事、自力で食事 人にサービス提供できる
	テラス	小さな自分の居場所	
入浴	浴室	家庭的な個別浴室 自発的な入浴	自力での入浴（一部介助） 自発的な入浴
	脱衣室 (洗濯室)	洗濯機使用可 衣服の着脱	衣服を自分で洗濯（一部介助） 自力での衣服の着脱（）

建築の与条件と増改築案

生活リハビリの場となるユニットを構成する諸室を設定し、そこで行われる生活リハビリの具体的な内容とその効果を想定

生活リハビリとは日常生活での行為そのものである。
キッチンや個別浴等、家庭と同じ環境を整えることで、ユニット内のすべての場所で生活リハビリが行われるようになる。